

大田区自立支援協議会 令和2年度 第3回地域生活部会議事録

文責：事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和2年度 第3回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和2年9月15日(火) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	入新井集会室(小集会室)			
(4) 出席した委員、事務局	宮崎 渉	鶴田 雅英	青山 明子	大場 貴弘
	佐久間 香織	宮島 祐紀子	山根 聖子	恵良 幸樹
	榎 拓己	大岩 香代子	小野 英次郎	棧敷 洋子
	清野 弘子	中野 真弓	新田 美和	平井 有希子
	山田 悠平			
	区事務局：秋山、西澤、大本、親跡			
(5) 内容・要旨	<p>1 議題</p> <p>(1) WG 障害福祉サービス利用に関わるリスト作成の報告 WGの目的、検討方法と内容、提案について資料にそって報告。 山田委員：全6回の活動を行った。当事者、家族等様々な立場から構成されたWGメンバーに加え、回ごとのテーマに係るオブザーバーから説明を受け、課題を掘りさげていった。検討方法は、すでに提供されているリストの内容、活用方法を考察、民間事業者連絡会作成の冊子が地域福祉課窓口でどのように提供されているのか調査等を行った。冊子の取り扱いについては、各地域福祉課によって対応がまちまちであることがわかった。このことからWGでは、必要とする人に情報が届くよう大田区立障がい者総合サポートセンターの基本相談が起点となり情報収集を行い、地域福祉課に対して一元的に情報提供していくことを提案した。他にも現状リストに含まれていない、例えば「医療的ケア対応の応否」「男女ヘルパーの数」等の項目が新たに必要との意見があった。これについては東京都への働きかけも考えていくべきである。障害福祉課にもイニシアチブをとってほしい。</p> <p>青山委員：リストに関する具体的な提案を大田区としてどのように取り扱うのか。この間に進捗があれば教えてほしい。</p> <p>事務局：障害福祉課、地域福祉課でどのような動きがあるのか事務局では把握していない。今後確認をする。</p> <p>青山委員：ぜひ実現してほしい。専門部会やWGから出された意見を持ち帰り、関係する部署に伝達して積極的に話し合い今後活かしてほしい。</p> <p>鶴田委員：提言を具体化していくことが大事。4つの地域福祉課の会議等で検討し、その結果を協議会に報告してほしい。</p> <p>山田委員：WG最終回に地域福祉課からオブザーバー参加があった。話し合いの中で情報収集、情報提供の状況は、それぞればらつきがある印象を持った。障がい者総合サポートセンターで、情報を一元化して4つの地域福祉課に伝えてもらいたいと思う。WGとして提言を発信していくのか、専門部会として発信していくのか、委員の意見を聞きたい。運営会議で検討していく必要がある。</p> <p>新田委員：現状ではリストによってそれぞれ目的や対象者が決まって</p>			

	<p>いるので、今すぐ一元化するの難しいのではないかと。障害福祉課が率先して、ひと目見てわかりやすいリストの作成等の方向性を示してくれるとありがたい。</p> <p>山田委員：民間が作成した冊子が地域福祉課によって届いているところといないところがあるようだ。冊子には有効な情報の掲載があると思うので、ぜひ活用していただきたい</p> <p>榎委員：移動支援に関して、8月30日にネットワーク準備会があった。今後は大田区行政との懇談会の開催に向けての準備とガイドラインの作成を進めていくことになる。</p> <p>宮崎委員：提言の仕方については次の運営会議の議題にあげたいと考えている。提案の方法を確認する必要がある。協議会会長、専門部会部会長、または連名なのか。またWGは一定期間で活動が終了するので、行政の回答期限を決めるなどして、検討や見直し期間を確保することも必要なのではないか。専門部会やWGが終了した場合のことや行政の担当者の異動なども含めて切れ目のないよう考えていかないといいのではないかと。</p> <p>山田委員：協議会は言いたいことを言えばいいというものではない。行政が理解しやすい、実現しやすい提案をしていかなければならない。また、協議会は民間だけでなく事務局として行政も関わっている。地域課題を検討した結果から導かれた解決策を、どのように施策に建設的かつ具体的に落としこんでいくのか。協議会には大田区障がい者施策推進会議とは別の会議体としての役割が与えられていることを委員が共通の認識として持つことがあらためて求められる。運営会議では協議会の中で提言方法の枠組みを作してほしい。</p> <p>鶴田委員：合理的配慮では建設的な対話の場をつくるのが重要とされている。行政に対して要望するだけでなく、自分たちが所属するネットワークの中でできることもある。</p> <p>中野委員：地域課題を検証し対策を提言するWGのまとめは成果であり、協議会の財産でもある。これをどのように扱っていくのか運営会議や本会の意見交換で考えていくべき課題である。</p> <p>宮崎委員：協議会は調査、議論、精査、修正等と時間のかかる課題に関わっている。地域課題に対して要望するだけでなく、アイデアを出すという考え方で協議会から提案していきたい。運営会議で議題として預かるのももう少し時間をもらいたい。</p> <p>小野委員：WGの成果を協議会としてどのように扱っていくのか、今日の専門部会であがった意見を次回運営会議で部会長から報告することをこの場で確認した。</p> <p>(2) WITH 新型コロナウイルスにおける新しい生活様式に向けた地域課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 追加分も含めた集約資料に基づく意見交換等</li> <li>イ 課題等の確認や整理</li> <li>ウ 今後の進め方、取り扱い等について</li> <li>エ その他</li> </ul> <p>小野委員：資料の集約表は、それぞれの立場から多岐にわたる内容となっている。作業部会では、集約表の8.課題のグルーピン</p>
--	--

グについては物品や制度というような仕分けができるのではないか。9. 課題解決等のスパンは今すぐできるもの、時間をかけて解決していくものがあるのではないか。10. 今後の取り組みについては必要に応じて横断的な考え方もあるのではないかということ話し合った。またコロナ禍、それぞれのネットワークが実際に活動することができていたのか否かを検証することも大事である。

山田委員：コロナ関係でよく相談を受ける。集約表に、ヘルパーがコロナ禍で退職して困っている。PCR検査を早く受けることができるようにして利用者もヘルパーも不安のないようにしてほしいという意見があった。命に関わる緊急性のある課題から積極的に行政に伝え、共有することが重要。後日アイデアをつけ加えて意見を出すという方法でもよいのではないか。このことを検討すべくWGを設置してもよい。

宮崎委員：前回の運営会議にコロナに関する横断的なWGの設置について提案を出したが、保留という結果になった。理由は次のとおり。4月～5月、現在と、半年の間にも状況は刻々と変化しているので、それぞれが所属するネットワーク会議で共有、協議したほうがわかりやすく、解決まで早いのではないか。また、まとめるまでには時間がかかるが、コロナ禍の今年度の協議会活動の中で十分な時間を確保することができるのかわからない状況にある。備忘録に止まるのではないか。協議会としてコロナに関する今までの経過をまとめることは良いと思うが、協議会全体ではなく小さな単位の部会で動いたほうが解決に結びつくのではないか。

山田委員：コロナ禍という特殊な状況は現状の課題ということができる。協議会というオフィシャルな場で共有すること、専門部会の中で話し合う時間をつくり議事録に残していくことが重要だ。

中野委員：協議会は様々な分野、立場から参加している。地域生活について、それぞれの意見を発表することは有意義であり、それを書き起こすことは貴重な記録になる。コロナ禍、各ネットワークで何をどのようにしてきたのか協議会全体にアンケートを実施することも必要だと考える。地域生活部会の中だけであってもまとめたい。ネットワーク体を有機的に結びつけることも協議会の役割と考える。

宮崎委員：専門部会の中で、コロナをもう一つの柱としてまとめていくことを運営会議で提言したい。備忘録になるかもしれないが、まとめておくことは今後の参考になる。集約表を読んで、困っていたのは自分ではなかったと勇気をもらった。今あるネットワークをつないで解決につながるロールモデルづくりができるかもしれないと思った。各ネットワーク体がどう関わりつながるのか。難しいが各々視点の違うところを活かせば積み上げとなり、地域課題の解決、未来への提言になるのではないか。来年度末を期限とし、専門部会レベルで議論したい。

鶴田委員：次の運営会議で提案する。なぜ今コロナについて議論する必要があるのか。専門部会で取りあげることで、今度このような事態があった時の判断材料として参考になるのではないか。

小野委員：他の専門部会ではコロナについての報告はあったのか。

山根委員：運営会議の報告では、それぞれの所属するネットワークで

必要な話し合いをしており、すでに解決しているものもあるという話だった。

山田委員：新委員のWGへの関わりがコロナ禍で曖昧になっている印象があるので、扱いについても考えたい。

事務局：コロナに関しては専門部会の中で整理していくこととする。地域生活部会で整理することで、より具体的な内容となり課題が明確になる。そのことで、必然性が出てくれば専門部会を横断的したWGの発足を検討してもいいのではないか。さらには協議会全体で討議するきっかけになるのではないか。新委員には専門部会、各WGの状況を伝えているが、協議会活動が止まっていた期間もあり、十分に伝わっていないこともあると思う。新委員にはWGに参加する、またはオブザーバー参加も自由に考えてほしい。

小野委員：コロナに関しては専門部会で継続して検討していくこととする。クリアになった課題についても、なぜクリアすることができたか経過を報告していただきたい。共有することで地域の力になっていく。

### (3) 部会の開催日程、年間スケジュールについて

#### 第4回地域生活部会に向けた作業部会

日時：10月6日(火) 9時20分～10時00分

場所：障がい者総合サポートセンター集会室1

出席者：宮崎委員、鶴田委員、山根委員

※ 終了後、運営会議の予定

#### 第4回地域生活部会

日時：10月20日(火) 10時00分～12時00分

場所：障がい者総合サポートセンター多目的室

#### 地域生活部会

書記：第5回 新田委員、第6回 小野委員、第7回 大場委員、第8回 大岩委員

司会：作業部会に参加した委員から選出予定

### (4) 各連絡会等の情報提供について

宮崎委員：9月25日(金)に放課後等デイサービスのネットワーク会議を障がい者総合サポートセンターで開催予定。コロナ対応について4～5人の小グループで話し合う。密にならないよう2回に分けて実施する。行政からの報告は事前配付し、各自が目を通しておくことで会議の時間を短縮するなど新しい集会方法を模索中。リモート会議についてもどのようにセッティングしていくのか。環境を整える必要があると考える。

大場委員：8月24日グループホーム連絡会があった。近況を報告、コロナにまつわる話を共有した。

鶴田委員：ネットワーク会議に参加していないところに問題が隠れていることはないのか。サービスを利用する立場からすれば、会議に参加している事業所をぜひ選びたいと考えるのではないか。不参加の事業所名は公表しないのか。

小野委員：ネットワーク会議に参加している事業の名簿を公表するほうがいいのではないか。それぞれのネットワークで検討していただきたい。

(5) その他

山田委員より

「障害者理解啓発グループおおた〜ツタエルチカラ〜」

精神障害の当事者、家族、専門職、学識等からなるネットワーク組織を8月に発足。映画上映などを通じて地域に発信していきたい。

- ・ 9月25日(金) 第2回リカバレッジおおた定例会(オンライン・オフライン兼) 「精神障害者が語る恋愛と結婚とセックス」発行記念

平井委員より

おおたTS ネット

5月以降毎月オンラインで定例会を開催。オーちゃんネットやフェイスブックにzoom入室のためのID、パスワードを掲載。入退室自由なので気兼ねなく参加してほしい。

- ・ 9月29日(火) 拡大定例会「いまどきの若者たちのいきどころ」講師 安井飛鳥氏 2月に予定していたがコロナで延期となりあらためてオンライン、オフライン併用で開催。

中野委員より

おおた社会福祉士会

- ・ 9月16日(水) 居住支援定例会「大田区での実践報告〜地域のネットワークで支える住まい探し〜」
- ・ 9月26日(土) 生きづらさ・引きこもり支援の地域ネットワーク構築事業「事業紹介&居場所イベント映画上映会」

○10月作業部会

日時：10月6日(火) 9時20分から10時(10時15分から運営会議開催のため開催時間を前倒し)

会場：大田区立障がい者総合サポートセンター 3階集会室1

内容：次回地域生活部会の司会及び書記決めや進行確認など

次回、第4回 地域生活部会は

日時：令和2年10月20日(火) 10:00~12:00

場所：障がい者総合サポートセンター 5階多目的室